

# 社会課題の解決と企業の成長を 両立し、新しい価値を創造

コニカミノルタ株式会社 常務執行役 家氏 信康



いま、世界は地球規模での環境問題に直面しており、地球温暖化防止に向けたCO<sub>2</sub>排出量の削減、資源循環、生物多様性の保全等が喫緊の課題となっています。企業はこれらの課題に対して技術を革新し、環境負荷を低減する環境経営を推進していく必要があります。

グローバル企業がこれから数十年先を見越して持続的に成長するためには、経済的価値の創出だけでなく、社会の重要課題である環境問題の解決に向けた取り組みが不可欠です。コニカミノルタの経営理念は「新しい価値の創造」、経営ビジョンは「グローバル社会から支持され必要とされる企業」「足腰のしっかりした進化し続けるイノベーション企業」です。製品開発から調達、生産、物流、販売・サービス、回収・リサイクルまですべての事業プロセスで環境負荷低減を目指しながら、その取り組みを企業としての成長と両立させ、社会的にも経済的にも新たな価値を創造していくことをコニカミノルタの環境経営の柱としています。製品ライフサイクルにおけるCO<sub>2</sub>排出量を2005年度比で80%削減する、という長期環境ビジョン「エコビジョン2050」を策定し取り組みを進めているのも、その決意を表しています。

企業の成長と環境負荷低減を両立するためには、技術革新と事業革新の2つの持続的な挑戦が必要と考えています。コニカミノルタの技術革新を象徴するのが、機能材料の技術から生まれた有機EL照明です。非常に高いエネルギー効率に加え、薄くて曲げられるため用途の自由度も高く、生活の至る所に存在する照明を一新し得るイノベーションになると確信しています。主力事業の情報機器事業においては、必要な時に必要な量だけ出力できるデジタル印刷機システムの技術によって、印刷時のエネルギーを抑えると共に、余分な印刷と廃棄を抑え環境負荷の低減に貢献するというビジネスモデル自体の変革にも取り組んでいます。また捺染においては、インクジェットの技術により従来のアナログ捺染に比べCO<sub>2</sub>排出量を9割以上、水使用量を6割以上削減するなどの劇的な環境負荷低減を可能にしています。

さらに独自のコア技術として培った生産技術、材料技術等を環境技術へ展開し、新しい価値を創り出しています。例えば、使用済み材料がリサイクルを経てより高い機能・性能を持つ製品へ生まれ変わる「アップグレードリサイクル」の技術です。注目したのは、大量に存在しながらも有効なリサイクルの道すじが課題となっているペットボトルです。一般的にペットボトルを同品質の再生PETとしてリサイクルすることは難しく、再生PETの用途は繊維など要求性能が低い製品に限られています。

コニカミノルタは、異なる樹脂をブレンドすることで高い性能を引き出す「ポリマーアロイ」技術に着目して、ウォーターサーバー用ガロンボトルの素材を組み合わせることで性能に優れた再生樹脂を開発し、主力製品である複合機の外装材として業界で初めて採用しました。また、欧米で広く流通するプラスチックのミルクボトルを、精密機器である複合機用のトナーボトル材料として再生する技術を独自開発し、メキシコとマレーシアでの量産体制を確立しました。

環境負荷の低減は自社内の取り組みだけでは限りがあります。サプライチェーン全体、つまり部品の供給を受けるお取引先から製品を提供するお客様まで、あらゆるステークホルダーと価値を共有し、ともに推進していくことによって、より大きな環境貢献へと発展させることができます。コニカミノルタは、自らが培ってきた環境技術・ノウハウ等をお客様やお取引先にもオープンにし、環境経営を支援する活動を開始しました。これはライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量のスコープを越えた、より広い範囲のCO<sub>2</sub>排出量削減を見据えた取り組みとも言えます。

“自社の知恵とテクノロジーを結集すればどのような社会課題の解決に寄与できるか”を見定めて、そこに成長戦略を描くことこそが、これからのグローバル企業のあるべき姿だと考えています。さらに、そのような企業になることが、アライアンスやパートナーシップを新たに呼び起こし、ひいては地球環境負荷低減の動きを加速させていくことになると確信しています。